

構成・演出・振付
大島 早紀子

平成16年度文化庁芸術団体重点支援事業



ART CHAOS

©野波

ただ生きたいのか、あるいはその上に、神々を創る機械にほかならぬ宇宙の本質的機能が、この反抗的な地球においてまでも果たされるのに必要な努力をしたいのか、それを問うのも人類なのである

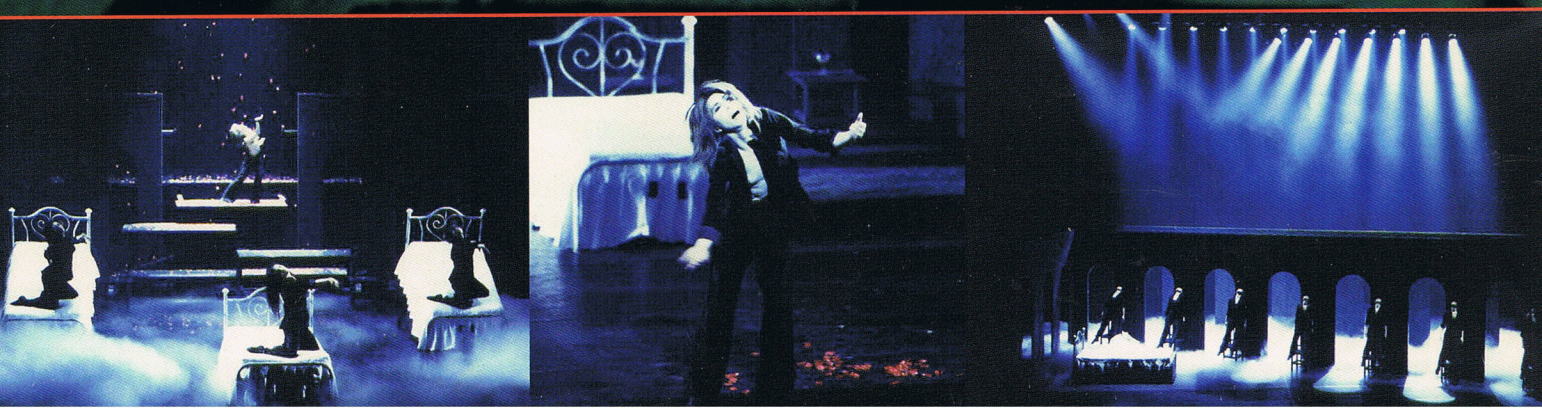
H・アール・カオス ダンス公演

本作品により第1回朝日舞台芸術賞受賞・2004年文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞の白河直子主演

神々を創る機械 2005

出演 白河 直子 奥山 由美子、木戸 紫乃、小林 史佳、斉木 香里、長内 裕美、野村 真弓、国府田 はるか

2005年3月11日[金] 12日[土] 13日[日] 東京芸術劇場 中ホール



H・アール・カオス ダンス公演 神々を創る機械 2005

2005年 3月11日[金] 12日[土] 13日[日] 東京芸術劇場 中ホール

19:30開演

19:30開演

16:00開演


構成・演出・振付 —— 大島 早紀子

出演 —— 白河 直子

奥山 由美子、木戸 紫乃、小林 史佳、
齊木 香里、長内 裕美、野村 真弓、
国府田 はるか

スタッフ

照明 —— 笠原 俊幸
舞台監督 —— 金子 芳浩
音響 —— 友部 秋一
音楽協力 —— 笠松 泰洋
衣装 —— 朝月 真次郎
空間美術 —— H・アール・カオス
宣伝写真 —— 野波 浩
宣伝デザイン —— 小田 善久
制作 —— 柏 雅弘
主催・企画制作 —— H・アール・カオス
有限会社東京アートファクトリー

 平成16年度文化庁芸術団体重点支援事業

チケット取扱

東京芸術劇場チケットサービス 03-5985-1707

チケットぴあ —— 0570-02-9988 (オペレーター対応)
0570-02-9966 (Pコード:358-355)

ローソンチケット —— 0570-000-403 (オペレーター対応)
0570-063-003 (Lコード:33263)
※24時間受付、発売初日は10:00AMより

e+(イープラス) —— <http://eee.eplus.co.jp>
H・アール・カオス —— <http://h-art-chaos.com>

チケット料金

前売・当日 —— S席(指定席) ¥6,000
A席(指定席) ¥5,000
B席(指定席) ¥4,000
※ユース割引(S席) ¥4,000

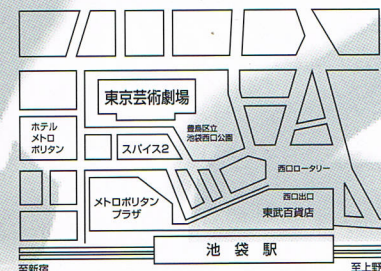
※二十歳未満または学生の方のインターネット経由 (<http://h-art-chaos.com>)での申込みにより受付。各回数枚限定、本人のみ、当日受付にて学生証、身分証明書提示

※未就学児の入場不可

チケット発売日 —— 2004年12月18日(土)

お問い合わせ

H・アール・カオス —— 03-5301-0866
kashiwa@h-art-chaos.com



●池袋駅西口下車徒歩2分
●池袋駅から地下通路で劇場に來られます。
●駐車場(有料)110台
東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel.03-5391-2111

「大島早紀子は、いつも現代を明確に反映した衝撃的な作品で話題を呼び、日本のみならず欧米でも評価が高い。新作「神々を創る機械」は、いま世に大きな危機感をあおっている医療の問題が発想の源の一つであるらしい。

だが単なる時事性をはるかに超えて、彼女ら(というも舞台上に登場するのは女性だけの)ダンスは、時代を遠くさかのぼり、ほとんど永遠に触れることもある。～中略～白河直子の肉体造形は女であることを超え、人間であることさえも超え、何か純化されたエロスと生命の極点を見る思いにさせられる。動きの秘密はとらえがたい。」

朝日新聞 01年3月18日 佐々木涼子(舞踊批評家)

「舞台上には、来世と現世を隔てるような回廊が築かれ、その表裏で白河が生と死の境界線に立つ人間を演じ、他のダンサーたちは甘美な死へと誘惑するように踊り、生と死とのせめぎ合いが繰り広げられる。～中略～

死をイメージさせる骨をさらしながらの力強い踊りを見るうちに生死の境界を超越した「聖性」が感じられた。極限まで肉体を酷使する白河の踊りからは、ありとあらゆる感情が刺すように伝わってくる。時代の危機に立ち向かう肉体の迫力に何度も息をのんだ。」

読売新聞 01年3月27日 祐成秀樹

「H・アール・カオスの創出する舞台には、いつも現代社会から個人が負わされる擦過傷をどのようにしたら癒やすことができるのか、というテーマが仕掛けられている。

今回は臓器移植や人工呼吸器による延命治療をめぐる発生している生命倫理や死生観の揺らぎ、という身体に直結した問題が提起されていると見てよいだろう。

ただし、このようなテーマはあくまで伏流であって、そこから抽出される大島の卓抜なイメージ構成と、それを超絶的、極限的な身体の動きによって現実のものとする白河の表現力の見事な合一にひたすら驚嘆させられるのだ。それがこの舞台を単なる物語性から解き放ち、身体とは、生命とは、という核心に観客の意識を直進させる。」

日本経済新聞 01年4月12日 馬場駿吉(演劇評論家)

H・アール・カオス (H・ART CHAOS)

H・アール・カオスは、1989年、演出・振付家の大島早紀子とダンサー白河直子により設立。独自の美意識と哲学に支えられた大島の空間感覚溢れる作品と、衝撃的な天才ダンサー白河の究極の身体造形とにより、国内外で圧倒的支持を集めている。日本のトップダンスカンパニーとして、海外フェスティバルからの招聘も数多く、フランス・ドイツ・オーストリア・韓国・シンガポール等の様々な都市で公演を実施している。97年の北米ツアーではトロント、モンリオール、ピッツバーグのそれぞれの都市で年間最優秀作品に選出され、2000年にはNYタイムズが選ぶ同年のダンス・オブ・ジ・イヤーに選ばれている。

国内の主な受賞歴

- 1993年 キリンコンテンポラリーアワード 優秀賞
- 1996年 第27回舞踊批評家協会賞新人賞、日本バレエ協会振付特別賞
- 1997年 村松賞
- 1998年 第29回舞踊批評家協会賞大賞
- 2000年 千年文化芸術祭 優秀作品賞
- 2002年 第1回朝日舞台芸術賞
- 2003年 第34回舞踊批評家協会賞大賞、第25回ニムラ舞踊賞
- 2004年 第54回芸術選奨文部科学大臣新人賞



SHIMA Sakiko



HIRAKAWA Naoko

「神々を創る機械」

01年発表時に本作により第1回朝日舞台芸術賞受賞、その後03年にシンガポールのバレエ団であるSingapore Dance Theatreに本作のポワントバージョン"Le Festin D'Immortalite"をSDT正式メンバー男女計23名(主演:白河直子)でアジア最大級の劇場Esplanadeにて上演し、絶賛される。

また、本作の後半部分をベースとした作品"Miserere"(同時上演「春の祭典」)は04年にロシア・北欧・東欧において日本のコンテンポラリーダンスとして初の本格的公演を行い大成功を収めている。本作「神々を創る機械2005」は新たなる演出・振付により「生死の境界線に挑む」決定版であり、05年度にはNovel Dance 2005(台湾)、パースインターナショナルアーツフェスティバル(オーストラリア)、アデレードフェスティバルオブアーツ(オーストラリア)等のフェスティバルに招聘されている。

